救援センター運営会議

防災課では、豊島区内の救援センター校ごとに運営会議を開催して検討を行っています。これは、災害の時に速やかに救援センターが開設され、防災活動や避難所の運営がスムーズにできるようにするために行われているものです。阪神淡路大震災で、学校への避難や使い方のルールが決まっておらず、避難所としても学校としても混乱を生じたという苦い経験から豊島区でも取り組みがはじめられたものです。図らずも今般の新潟県中越地震では、そのような対応策が整備されておらず、混乱を生じて、ますますその必要性が認識されました。

池袋本町の３つの救援センター校では、すでに文成小学校が今年３月に運営会議を終え、「救援センター開設マニュアル」を作っています。現在、池二小学校が会議を行っており、池袋中学校はこれからになります。

このマニュアルには、地震発生直後(混乱／立ち上げ期)における救援センターの開設と、避難してきた住民の皆さんにいかに混乱なく入っていただくか、そして避難所を開設した後の運営についてまとめられています。運営では、庶務部、情報連絡部、物資調達部、救護・衛生部、学校部などの役割を決めて対応することなどが決められています。このマニュアルは各町会と学校、第11地区地域本部に置かれ、災害時に取り出してすぐに使えるようにしています。

町会の代表として文成小学校の救援センター運営会議に参加された方は、このようなマニュアルを作ることは大切なことだと感じましたが、防災課が主導する運営会議と、住環境整備課が主導する防災まちづくりの連携が、地域の防災対策として改善されなければならないのではないかとおっしゃっています。また、地域の住民が、災害時にどのようなことが起こり、それにどのように対応するかを行政と一緒に考えることも必要だと感じたそうです。別の方からは、救援センターの収容人数が、地元の入口に比べて少ないことをどう考え解決していくかが問題ではないかとの指摘もあります。

マニュアルは作って終りではなく、それをどう使いこなすかが次の課題になります。是非、防災まちづくりの会との連携も考えながら、災害時の行動について検討する機会にしていければと願います。

サバイバル・ワンポイント講座 その18

部屋を守る

10月23日午後５時56分ごろ、新潟県中越地方を震源とする地震では、死者が40人、ケガ人が約4,500人にのぼっています。

その後も12月に北海道で震度５強を記録する地震が２回ありました。２つの地震では、死者は出なかったものの、18人がケガをしています。

その原因は、慌てて行動して転んだための打撲や骨折、倒れた家具による打撲、割れたガラスによる切り傷などです。自宅でケガをされた方が多いようです。みなさん！自分の家を思い浮かべてみてください。たぶん１日の３分の１以上の時間を過ごすことになると思います。部屋の防災対策は、だいじょうぶですか。

このケガ人の発生を防ぐためには、部屋を安全にしていくことが大切です。

◆部屋の防災対策のポイント

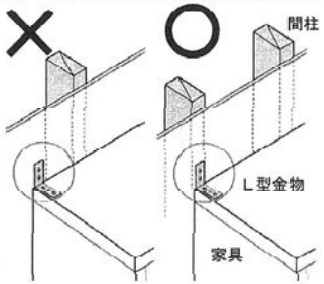
その１：対策をする部屋に優先順位をつける

一度にすべての部屋を安全にしようと思ってもなかなか大変だと思います。そこで、まずは日頃よく使う部屋、寝室や居間からはじめます。特に寝室はとても大事です。早朝に発生した阪神・淡路大震災では、寝室で多くの方が亡くなっています。また、小学校の防災授業のときに「自分の部屋にいるときに大きな地震が起きたらケガをしちゃうと思う人は、手を上げて！」と質問すると、ほとんどの子どもたちが手を上げます。阪神・淡路大震災の教訓が生きていないですよね。

その２：予算にあわせて確実に

最近のホームセンターは、防災グッズコーナーを設けているところが多いですね。そこには、いろいろな防災用品が並んでいます。値段もいろいろです。しかし高価なものだから効果確実というわけではありません。取り付け方に気をつけないと効果が出ません。

チェックポイントは、壁材・天井材の裏の間柱などの下地に「ねじ止め」や「突っ張り器具」をセットすることです。そうしないと地震の揺れでねじが抜けてしまったり、突っ張り器具が天井に穴を空けてしまいます。下地を見つけるには金槌などでたたいたり、千枚通しのようなものを刺してみます。硬いのですぐに判るでしょう。また、チェーンで固定する時は、たるみのないようにします。



せび今度の週末は、日曜大工としてやってみてはいかがでしょうか。

(いのうえこういち／防災ネットワークプラン)

池袋本町 防災まちづくりニュース
Ikebukuro Honcho Bosai-Machizukuri News
no. 35
2005年1月17日発行

発行：池袋本町防災まちづくりの会
豊島区住環境整備課
問い合わせ先：住環境整備課
TEL 03-3981-0489
編集協力：(株)防災&都市づくり計画室

新しいまちづくりについて区に提言

池袋本町防災まちづくりの会と本町防災ひろばの会が合同で取りまとめた新しいまちづくりへの提言は、前号のまちづくりニュースに案を掲載して皆さんのご意見を伺いました。その結果、特に異論はありませんでしたので、原案のとおり提言書として取りまとめられました。

この提言書は、地区の防災まちづくりが、８年間の防災生活圏促進事業の期間を経てもまだまだ整備が十分ではないため、引き続き防災に主眼をおいたまちづくりを進めることをお願いする内容となっています。

２つの会では、１月18日にこの提言書を豊島区長に直接手渡して主旨を説明し、今後のまちづくりを推進していただくようにお願いする予定です。

豊島区では、この提言書を受けて、地域のまちづくり計画を作成することとなっています。この計画は、これからの地区のまちづくり方針を決める大変重要なものとなります。年度内に取りまとめ、地元の皆さんに計画を説明しご意見を伺う予定です。

また、この地区においては、防災まちづくりを継続する必要性が高いと判断し、平成17年度から居住環境総合整備事業を導入するための準備を進めています。

居住環境総合整備事業は、お隣の上池袋地区や東池袋４・５丁目地区で行われてきた事業です。国や都からの補助金を受けることにより、道路や公園を整備したり、建物の建替えのお手伝いをすることができる事業です。

この事業を実施するに当たっては、国や都に地区の整備計画を提出し、認めてもらう必要があります。整備計画は、会からのまちづくり提言を受けて作成したまちづくり計画に則して取りまとめていきます。

2000㎡の防災ひろば　１月上旬着工

区が設計を行ってきた2000㎡の防災ひろばは、工事業者も決まり、いよいよ着工されます。工事は１月上旬から２月末までの２ヶ月間。ご近所皆さんにはご理解とご協力をお願いいたします。

この2000㎡のひろばは住宅に接しているので、その使い方によってはご近所の皆さんにご迷惑をお掛けすることがあるかもしれません。また4000㎡の防災ひろばや本町公園と隣り合せなので、同じような使い方にしないで、それぞれが特徴を持った使い方ができるかもしれません。

区と本町防災ひろばの会では、2000㎡の使い方などについて、ひろばができるまでに、ご近所の方々のご意見も伺いながら検討を行います。

つれづれに一言

新潟県中越地震で感じたこと

新潟県中越地震では、豊島区も防災協定に基づく初めての支援活動を行い、私自身も地震発生の翌日には被災地に入りました。まだ国や専門機関などから調査報告が出ておりませんので、これから述べることは私の個人的な感想です。第一に、地震による直接的な犠牲者が少ないのは、豪雪に耐える建物構造と因果関係があると思われること。第二に、被災者同士の良好な助け合いは、コミュニティの強さを感じさせること。第三に、発災直後は、やはり「水」が大切であること。などです。実は、「耐震性の高い建物はわが身を守り、いざという時は日頃の付き合いが大切で、水くらいは自分で備蓄しておく」ということは、以前から言われていることです。新潟県中越地震の教訓は、基本の大切さを改めて私たちに認識させてくれたことだと考えています。

豊島区防災課長　栗原　章

※このニュースは再生紙を利用しています